

2022年度(令和4年度) 事業計画

一般財団法人大阪府バスケットボール協会

## &lt;競技部&gt;

大会名	期 日	会 場	備 考
大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技	5月4日 ↓ 6月11日	千島体育館 丸善インテックアリーナ大阪	予選リーグ戦 決勝トーナメント戦
第77回国民体育大会 近畿ブロック大会	8月20日 ・ 21日	京都府 京都市体育館	
第77回国民体育大会	10月2日 ↓ 6日	栃木県宇都宮市	
第69回大阪総合 バスケットボール 選手権大会	8月27日 ・ 8月28日	箕面市立 第1総合体育館	全日本選手権大阪府代表決定戦を兼ねる
第98回天皇杯 第89回皇后杯 全日本バスケットボール 選手権大会	9月18日 ・ 19日	岸和田市総合体育館	1次ラウンド
第89回皇后杯 全日本バスケットボール 選手権大会	12月3日 ・ 4日	堺市立大浜体育館	2次ラウンド
第15回シニア大会	1月29日	はびきのコロセアム	
大阪バスケットボール カーニバル	2月26日	おおきにアリーナ舞洲	

## &lt; T O &gt;

## 1. 重点目標

- ・ カテゴリーを超えて連携し、各カテゴリーの T0 技術の底上げ。
- ・ トップリーグを担当できる知識と技能を持つ T0 担当者の養成。
- ・ FIBA Statistician 及び FIBA T0 ライセンスを取得できる知識と技能を持つ T0 担当者の養成。

## 2. 活動方針

- ・ 定期的に T0・スタッツ講習会を実施し、ルールを理解を深め、技能を磨く。
- ・ 各カテゴリーでの T0 講習会に、FIBA ライセンス取得者を講師として派遣する。
- ・ トップリーグに限らず、天皇杯・皇后杯や 3×3 などカテゴリーを超えて T0 担当者を派遣する。
- ・ JBA が主催する T0 講習会等に積極的に研修生を派遣し、研鑽を積む。

## 3. トップリーグ担当 T0 講習会 実施計画

No.	開催日	研修会・研修使用大会等	会場	備考
1	2022. 4. 10 (日)	新規 T0 希望者 ガイダンス・講義	大阪府協会事務所	ガイダンス 講義
2	2022. 4. 下旬	中学生 or 高校生 練習試合	未定	実技講習
3	2022. 5. 21 (土)	大阪府民大会	丸善インテックアリーナ大阪	実技講習
4	2022. 6. 11 (土)	大阪府民大会 (最終日)	未定	実技講習
5	2022. 6. 19 (日)	地域リーグ (女子)	原池体育館	実技講習
6	2022. 7. 10 (日)	地域リーグ (男子)	おおきにアリーナ舞洲	実技講習
7	2022. 08. 20 (土) ・ 21 (日)	国体近畿ブロック大会	京都・京都市体育館	近畿ブロック合同 実技講習
8	2022. 08. 28 (日)	大阪総合	箕面市第 1 総合体育館 (スカイアリーナ)	実技講習 ルールテスト

## 4. トップリーグ担当 T0・スタッツ派遣 計画

- B. LEAGUE 大阪エヴェッサ ホームゲーム (30 試合) へ のべ 210 名を派遣予定  
W リーグ 大阪府開催の 7 試合へ のべ 28 名を派遣予定  
天皇杯・皇后杯 1 次ラウンドへ T0 担当者を派遣予定  
皇后杯 2 次ラウンドへ T0 担当者を派遣予定  
3×3 連盟 3x3 日本選手権大阪府大会 (オープン・U18) へ 派遣予定

その他、各連盟や全国大会等への派遣依頼があれば、積極的に派遣する。

## <広報>

大阪のバスケットボールの情報源として、充実した内容を発信していく。

### 1. ホームページの充実、改善

- ①大会情報や結果、新着情報などの情報を始め、各委員会・部会・連盟と連携。
- ②他府県協会のHPも参考に、アクセス者の利便性を向上させるべく改善。

### 2. SNS 広告

- ①定期的な更新の徹底  
恒常的なアクセス数維持のため、各部署の更新期間が空く場合でも投稿を継続する。
- ②インサイト情報(利用状況)の活用  
アクセス状況が高い時間を分析し、登録者がFacebookやTwitterを利用している時間帯で情報発信を行う。
- ③新たなSNS媒介の活用  
Instagramを活用し、新たなユーザー層へアプローチを行う。
- ④新たなFacebook・Twitter登録者(ファン)の開拓(※2021年度より継続)  
SNS利用者へ、スポンサー獲得や大会・イベント告知に広告利用を行い、非登録ユーザーへのアプローチを行う。

### 3. スポンサー企業との連携強化

### 4. 動画配信を利用した発信強化

YouTube等、動画を利用した発信

文章や写真では伝わらない大会の様子を動画などのコンテンツを利用し、積極的に発信する。

## <技術統括>

### 1. 方針

この2年間、計画していた多くの事業が新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い中止を余儀なくされたこともあり、2022年度は昨年度に引き続き、事業の再開と継続性の確認に重点を置いてすすめていきたい。

(公財)日本バスケットボール協会より打ち出された「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016」の理念を受け、「大阪でバスケットボールを楽しむ人が増え、バスケットボールを楽しめる環境が充実し、そして大阪から日本代表選手が生まれ世界で活躍し、それが大阪や日本社会を元気にしていくこと」を理念として事業をすすめて7年目となる。(公財)日本バスケットボール協会は「JBS2016」を見直し、達成できたこと、できなかったことを踏まえ、進化させた指針として2024年までの達成目標を掲げた「JBS2021」を打ち出した。その内容は、「強化・育成」「事業」「組織」を引き続き進化させ、「育成」「コンプライアンス」「Withコロナ対応」に挑み、今の上昇機運を好循環スパイラルに昇華させるというものである。各委員会がこれまで構築してきたものを更に充実させ、場合によっては各委員会が横断的に協力し、登録チームや選手に対して「育成」・「強化」・「普及」をはかるために事業をすすめていきたい。

「育成」においては、DC事業が8年目を迎えたわけだが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響でほとんどの事業が延期もしくは中止を余儀なくされたため、DC活動の段階的継続的な育成としての活動が思うようにできなかった。2022年度は各カテゴリーにおいてその状況での知見等に基づきながら作成する新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドラインをもとに、各事業の開催に向けて取り組んでいきたい。特に、育成事業の柱であるU12の練習会、U13の5ブロック練習会、U14の8ブロック練習会と大阪DC交流大会、U15の練習会を開催し育成に努めたい。また、課題であったU15とU16(国体少年男女)とのつながりを考えた体制づくりをすすめていきたい。その実現に向け、国体少年男女のスタッフにおいて、令和2年度からはU15から1名加わっており、国体スタッフ選考と国体選手選考のメンバーにおいても、カスタマイズして体制を整えていきたい。指導者養成では、2019年度よりコーチデベロッパー制度導入など、コーチに関わるライセンス制度が大きく変更された。今後も制度の変更にしっかりと対応できるよう、研修の充実など、コーチにとっても安心・安全な環境を構築するために適切な支援をしていきたい。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、対面形式の研修が制限される中、研修会形式の模索をしながら研修会開催に向けても体制を整えていきたい。

「強化」においては、令和元年度国民体育大会から少年種別がU16に変更されたため、成年種別でU17、U18のいわゆる高校生2・3年生も対象選手となった。選手選考やスタッフ構成においてU18から1名加わるようになっており、更なる強化に向け取り組んでいきたい。

「普及」においては、49歳以上の大阪シニア大会の開催を通じ、オーバーエイジカテゴリーの普及に努めていきたい。

### 2. 今後の課題と具体案

#### (1) 強化事業

##### ①国体(成年種別)事業

- ・ トップリーグを引退した選手の人材活用
- ・ 軸となるチーム、選手の発掘
- ・ 「強豪大阪」に向けたコーチ、指導者の選考
- ・ 学連、社会人連との連携
- ・ 強化練習会、合同練習会の充実、人材発掘
- ・ 若手スタッフ、女性スタッフの発掘と育成
- ・ 継承性を考慮したスタッフ選考

##### ②日本スポーツマスターズ2021への選手選考、派遣

2022年9月23日(金祝)～26日(月) 開催地：岩手県

**(2) ユース育成事業**

- ・安心、安全なバスケットボール環境の実現
- ・個の成長を促す指導内容、指導方法の実践
- ・DC 事業の定着、発展
- ・育成方針、発掘方針、育成マインドの伝達
- ・各地区講習会の開催における強化（発掘・育成）、普及
- ・伝達講習の充実、指導者養成
- ・U12、U15、U18 間のカテゴリーを超えた連携、交流、情報共有
- ・強化委員会、指導者養成委員会、普及委員会、競技部との連携
- ・国体少年種別、中高一貫指導体制
- ・リーグ戦事業の充実

**(3) 指導者養成事業**

- ・JBA 公認コーチの登録管理
- ・JBA 公認コーチ養成講習会の開催
- ・リフレッシュ研修会の企画、開催

**(4) 普及事業**

- ・シニア大会開催  
2023年1月29日（日） 会場：はびきのコロセアム

**(5) 3×3事業**

- ・日本選手権大会への選手派遣、強化

## <医科学>

### 1. メディカルチェック(フィジカルチェック含む)の実施

主に中学生、高校生、大学生で公募。土日祝を利用して 1件につき 30 人以上で開催する。受益者負担 500～1,000 円/人を徴収(基本は 500 円、大阪府外登録者やオプション運動指導の回数増等で増額)。必要機材を順次揃えていく。特に足首ねんざの予防に力を入れ、エコー検査を中学生から推進していく。また、メディカルチェックの結果を各選手に認識させ、起きやすい傷害を予防するトレーニング方法やケガをした時のリハビリ等の運動指導を行う。

### 2. 講習会の開催

一般の現職者や指導者、審判、競技者等の対象者の範囲を大きく広げて講習会を開催。オンラインを中心に行い、遠方の講師等も招喚して幅広い内容で実施予定。年間 6 回程度予定。

(60 分 3 回、90 分 2 回、AED 講習 1 回)

### 3. 研修会・勉強会の開催

医科学委員、サポートスタッフ(学生を含む)、メディカルチェックスタッフ、有資格の希望者等を募り「勉強会」を開催しスタッフの各種レベルアップをはかる。年間で 3 回程度開催予定。また、受講者の中から本委員会への貢献度、人格面、経験値などを考慮して活躍を期待できるスタッフに日本スポーツ協会アスレティックトレーナーやスポーツドクター、スポーツデンティスト等の養成講習会参加への推薦を当協会に依頼する。

### 4. トレーナーブースの設置

当協会、各連盟主催の大会時、トレーナーブースを設置し、選手に対する救護、テーピング、アイシング、ストレッチ指導、トレーニング指導、リハビリ指導などのコンディショニングを業務とする。業務に必要な資材の充実を図る。現場では LINE 動画などで間接的に医科学委員のドクターに指示を仰ぐ等をして、幅広く対応ができるように各分野のスタッフが関わるように運営する。

### 5. 大会へのドクター派遣

当協会や各連盟主催の大会、全国大会、B リーグ、Wリーグ、審判部フィットネステストなどへドクター派遣やテーピング検査への協力を行う。

### 6. DC など協会事業への協力

DC 中央講習会の救護やメディカルチェックに協力する。

DC においては、地区練習会での傷害予防や体力向上等の内容で運動指導の回を設ける。

### 7. 協賛医院・企業の募集

ホームページの協賛医院・企業を募集する。

### 8. 学会発表

6 年間の傷害予防調査の結果やメディカルチェックの結果をもとに日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会や日本バスケットボール学会にて発表を行い、傷害予防についての啓発を行う。

### **9. ホームページの作成・充実**

現在存在する協会ホームページ内の医科学委員会ページの内容の充実化として、活動記録や傷害予防啓発の発信などをおこなう。

### **10. U12 チームへの医科学の介入**

指導実践研究グループ(G&PDSA)による枚方体育協会の地域型総合クラブへの傷害予防を目的とした医科学委員の介入を行う。

### **11. 医科学委員会会議の開催**

奇数月第 3 土曜日に会議を行う。委員だけでなく医科学委員会の構成する登録サポートスタッフもオブザーバーとして参加してもらう。

## <審判>

### 1. 2022 年度 大阪府所属審判員

S 級 6 名： 浅野祐樹（中） 飯尾勝紀（高） 大倉哲也（高） 茅野修司（社） 村田尚美（社）  
細見竜太（社）

A 級 9 名： 石川淳也（中） 太田令菜（高） 川崎洋次郎（社） 北村 仁（高） 木村裕也（ミ）  
清瀬未喜（社） 田中真規（社） 堂國和昭（ミ） 花谷槇子（社）

### 2. 重点目標

- ・ 『公平性・一貫性のある判定力』を持つ審判員の育成。
- ・ プレイヤー、ベンチ、観客から信頼を得る審判員の育成。
- ・ 3P0 担当審判員の育成。
- ・ 次世代を担う審判員の育成（U18 B 級審判員の輩出・強化）。
- ・ B：A：S 級ライセンス昇格者の育成

### 3. 方針

- ①バスケットボール技術向上の為に正しいルールの適応と実践。  
実技及び座学講習会を実施すると共に映像を使用しての分解講義の実施。
- ②大きな枠組み以外に細分化した講習会の継続実施。上級審判員輩出までの強化プロセスのシステム化  
3P0：2P0：指名強化：女性：BCD 級：U25：YOC（ヤングオフィシャル）を対象とした講習会の実施。
- ③カテゴリー、連盟、部署、他競技を超えた交流を行い、各組織との連携強化、相互発展を目指す。
- ④他府県及び他ブロックの審判派遣。  
大阪府以外への審判員派遣を行い、普段と違う環境での活動を行う。
- ⑤審判員として常に向上心を持ち、研鑽する努力を積極的に行う。
- ⑥審判委員会 HP の活用。  
各種大会及び結果、報告書を掲載し情報の共有と提供を行う。

### 4. 講習会計画

講習会・研修会 名	時 期	備 考
女性講習会	4～8 月	女性審判員
A 級+A 級候補審判強化講習会 (ステップアップ研修会)	通年	指名 A 級・B 級審判員
BCD 級講習会	7～12 月	BCD 級審判員
A 級研修会（近畿ブロック）	8 月	A 級審判員
2022 年度 B 級昇格審査会	12 月	連盟長推薦
JBA ルール伝達講習	3 月	各連盟長
インストラクター研修会	通年 2 回	3 級インストラクター
U25 審判研修会	通年	連盟推薦 審判委員会指名

但し、新型コロナウイルスの影響により、計画が中止、延期等の措置の場合あり